

民間活力の導入へ



公園を活かしたマルシェなど



カフェや駐車場の運営

これからの取り組み

令和6年度は、未来型図書館の「基本計画」を策定します。各機能(役割)や運営・サービス内容について、引き続き「こまつリビングラボ」を開催します。毎回、新たなメンバーを迎えて楽しく活動しています。あなたも参加してみませんか。



令和5年度の取り組みの様子



サービスの実証・体験



これまでの取り組みはこちら▶



「利用者と活動を結ぶ」未来型図書館へ



令和5年度 こまつリビングラボ
コーディネーター
青山学院大学 教授 野末 俊比古 さん

「未来型図書館」は、単なる「図書館」ではありません。博物館機能などを合わせ持った複合型施設であり、利用者(市民)がさまざまな

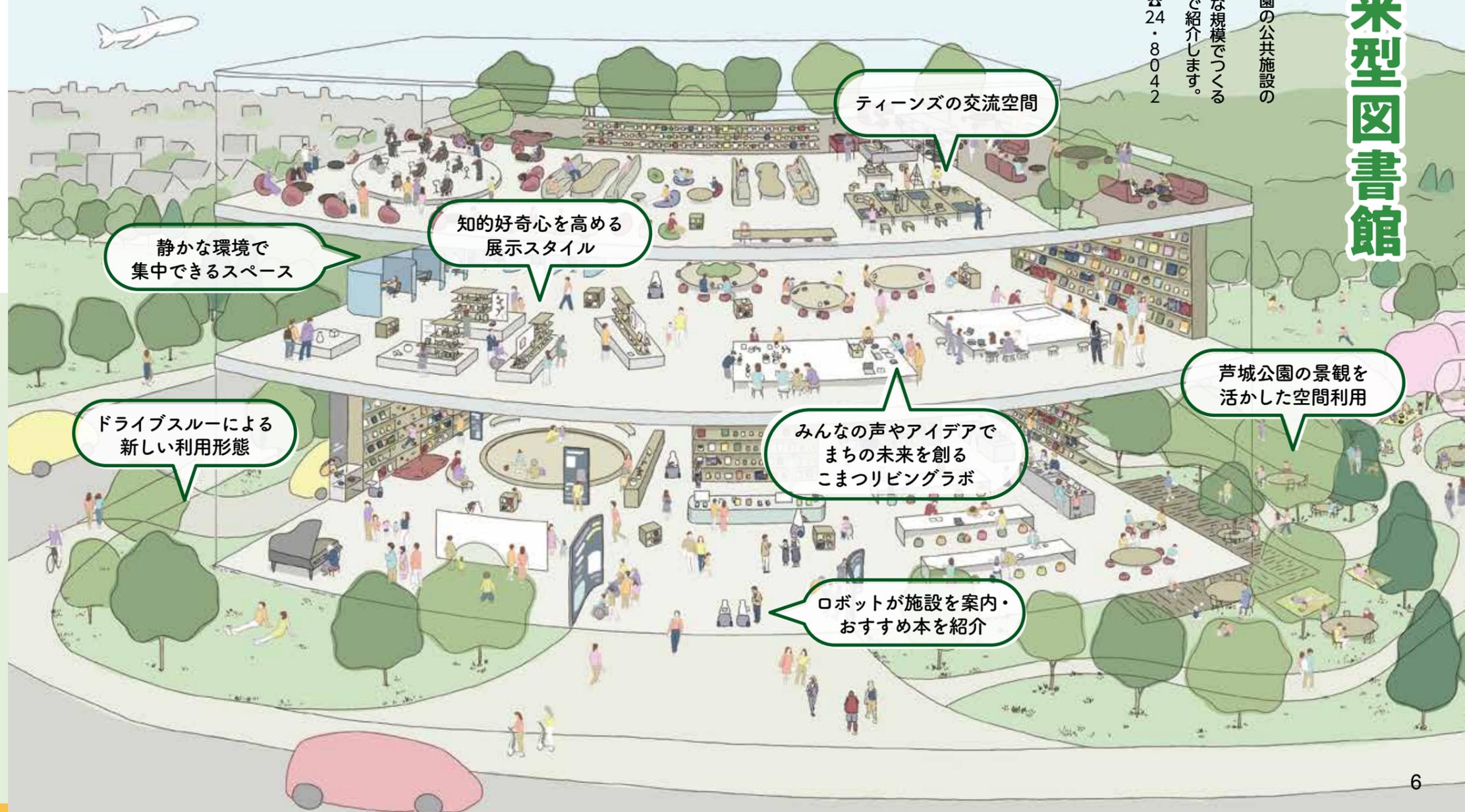
活動を行っていく新たな拠点となるものです。

リビングラボで子ども大人も立場や仕事異なる皆さんが横に並んで対話する様子は「新しい公共」を体現したものだと感じました。「小松市ならではの」図書館を創り上げていくためには、このような活動が市全体に広がり、継続されていくことが重要です。今後も対話を通じた共創の取り組みを推進し、すばらしい図書館が完成することを期待しています。

未来型図書館のサービス水準向上やコスト縮減のため、整備・運営には民間のノウハウや資金を活かしていくことも大切な視点です。設計・建設・運営など官民連携による事業方式を想定しています。

また、市民ニーズの高い飲食店などを施設や公園内に設置することや、未来型図書館をつくることで公園へ来る人が増えると思われることから、市役所前に立体駐車場を整備することも検討していきます。

市民の想いをイメージ化した未来予想図



静かな環境で集中できるスペース

知的好奇心を高める展示スタイル

ティーンズの交流空間

ドライブスルーによる新しい利用形態

みんなの声やアイデアでまちの未来を創るこまつリビングラボ

芦城公園の景観を活かした空間利用

ロボットが施設を案内・おすすめ本を紹介

事業方針

詳細はこちら▶

みんなで描いた「未来予想図」が完成

対話と活動のプラットフォーム「こまつリビングラボ」が、新たにスタート。利用者や運営者、設計者の視点で対話を重ね、みんなの想いをイメージ化した「未来予想図」が完成しました。

施設規模は、集約する図書館・博物館・公会堂の合計面積から約9,000㎡を基本としています。

建設予定地は「公会堂跡地」に決定

公会堂の解体跡地が建設予定地です。公園内の桜園を保全しながら景観を活かした施設配置や周辺の文化施設との回遊性が期待できます。

市民と共に創る未来型図書館

令和3年度からスタートした「未来型図書館づくり」は、芦城公園の公共施設のあり方と一体となった総合プロジェクトとして取り組んでいます。昨年度は、市民や民間事業者との対話を通じて、「こまつ」にどのような規模でつくるか、どのような機能を持たせるかなどの事業方針をとりまとめたので紹介します。

問い合わせ

未来型図書館づくり推進チーム ☎ 24・8042